

授業科目	ソーシャルワーク実習Ⅱ				単位	4		
履修	選択	関連資格	社会福祉士		ナンバリング	WE21234J		
開講年次	3	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2			
担当教員	荒木 剛、岡田 和敏、山本 佳代子、文屋 典子、通山 久仁子、中川 美幸							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>高齢者、障害児、障害者、医療、児童、地域福祉のいずれかの分野の実習施設において、実務者(実習指導者)の指導のもと、ソーシャルワークに係る専門的知識と技術について実践的に学ぶ。</p> <p>実習は原則として3年次の6月と11月(各90時間)に分散型実習として実施する。また、前期と後期の実習先は同一施設とする。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養うことができる。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題について把握できる。</li> <li>3. 生活上の課題に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施およびその評価を行うことができる。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解できる。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解できる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	0	0	30	70	100	
知識・理解 (DP1-1)					3	7	10	
知識・理解 (DP1-2)					2	3	5	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)					3	7	10	
思考・判断 (DP2-2)					3	7	10	
関心・意欲 (DP3-1)					3	7	10	
関心・意欲 (DP3-2)					3	7	10	
態度(DP4-1)					3	7	10	
態度(DP4-2)					3	7	10	
態度 (DP4-3)					3	7	10	
技能・表現 (DP5-1)					1	4	5	
技能・表現 (DP5-2)					3	7	10	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
ソーシャルワークに係る知識や技術を応用し、利用者の多様なニーズに総合的に対応できる。また、支援を概念化・理論化し、他者に示すことができる。				ソーシャルワークに係る基本的知識・技術を習得し、実際の支援場面で活用できる。また、社会福祉士としての自己の課題や職業倫理について理解を深めることができる。				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>1. 実習は、原則として3年次の前期と後期に分散型実習として実施する。前期は6月上旬、後期は11月上旬に各90時間で実施する。</p> <p>2. 実習施設は高齢者、障害児、障害者、医療、児童、地域福祉の6つの分野より選択する。前期と後期の実習先は同一施設とする。実習先は学生の希望等を考慮し、大学側が決定する。</p> <p>3. 実習の目的、実習内容および必要書類の作成などについては「実習指導1」および「実習指導2」の講義で説明する。</p> <p>4. 実習期間中および実習前後の個別指導は、担当教員が行う。</p> <p>※実習の準備状況(事前学習、健康状態など)によっては、実習を履修できない場合もある。また、実習開始後も実習生として不適切な行為等があった場合は、実習を中止し、単位を認めないことがある。その他、実習の履修要件については、キャンパスライフの「ソーシャルワーク実習の履修要件」をよく読んでおくこと。</p>	実習	実習前に実習分野・施設で必要となる基本的知識や支援技術について確認をしておくこと。	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	各実習分野の法制度やサービス、利用者の特性、支援技術等に関する知識を必要とする。			
テキスト	「ソーシャルワーク実習マニュアル」西南女学院大学			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書:「ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(社会専門)」中央法規			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実習課題を深める上でも学内での講義のほか、ボランティア活動等に積極的に取り組んで下さい。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	その他(実習評価票・実習課題等の達成状況)、レポート以外の提出物(実習日誌、課題等)で評価する。詳細は初回の講義で示す。 実習評価票、実習レポート、実習日誌等の提出物は評価終了後に返却・フィードバックします。 ※実習時間数が不足する場合は、単位は取得できない。			

